

はじめに

平成16年12月、「経済協力開発機構」や「国際教育到達度評価学会」の学力調査に関する調査結果が公表されました。これらの調査結果を受けて、文部科学省は、「日本の学力は国際的にみて上位にあるものの、読解力などの低下がみられ、世界トップレベルとは言えない状況である。」、「読解力が低下したこと、数学や理科の学力も低下傾向にあることについては、背景や原因をしっかりと分析する必要がある。」としています。

このような中、本県では、「宮崎の教育創造プラン」のもと、「宮崎ならではの教育」が推進されているところです。このプランの推進基盤となる施策の一つに、「学力の向上を図る指導の充実」があります。具体的には、基礎的・基本的な内容の確実な定着、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」「計算すること」の力を高める指導の推進、家庭学習や読書活動の推進等が掲げられています。

本研修センターでは、基礎的・基本的な内容の確実な定着を目指し、教育課程や指導方法の改善を図るための調査研究として、平成14年度から「基礎学力調査」を実施してきました。

平成16年度も小学校第3学年は国語、算数の2教科、第5学年は社会、理科を加え4教科、中学校第2学年は国語、社会、数学、理科、英語の5教科で行いました。昨年度に引き続き県内すべての公立小・中学校の参加があり、学力向上に対する関心の高さを感じます。

本報告書は、この調査の結果を基に、学習状況の分析・考察を行い、今後の指導上の留意点をまとめたものです。各学校におきましては、この資料を十分に活用していただき、基礎学力の向上につながる実践の方向性を明確にし、学習指導方法の工夫改善に役立てていただきたいと思います。

最後に、本調査の実施・分析等の際し、御協力いただいた県内の公立小・中学校及び関係諸機関に対しまして、心より御礼申し上げます。

平成17年3月

宮崎県教育研修センター
所 長 山本 寛幸